

一步も逃げずに闘ってきた



国鉄新潟



NO. 585
発行
06・11月22日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

地本退職者送別会



つされました。それぞれあいさつされました。木事務局長、交運共済から高橋所長がそれぞれあいさつされました。

十一月十二日、地本退職者送別会が、新潟市『東映ホテル』で一時三〇分から開催されました。開会あいさつは、石川組織部長から『これから国労運動を支えて欲しい』とあり、開会しました。



地本守橋委員長あいさつ

送別会というより激励会。今年は15名が退職、本日は10名が出席した。みなさんと同じ思いがよぎる、いろんなことがあったのでは。長い間、お疲れ様でしたと言いたい。

闘いは、総評中軸に国労があった。国民的課題と闘ってきた。20年に及ぶ長い闘い=国鉄闘争。国労・総評・社会党つばし。現在、安部内閣。極めて危険な政権だ。不当労働行為と真正面に向き合って闘ってきた。20年の大変な闘い。一步も逃げずに闘ってきた。これについて、誇りに思う。奮闘していただいた。違った環境・条件からスタートするが、国鉄闘争で闘った誇りを。平和と民主主義の闘い等についてお互いに力を合わせていきたいと思う。



牛木事務局長あいさつ（退職者組合）

退職されたという感覚を感じているのでは。定年があるから退職されることになる。国労として闘ってきたことに、御礼を。退職者組合の組織人員は1264名。国労本体の組織状況が厳しい実態。しかし退職者組合に加入して、いろいろな課題に対して闘っていく。運動を一緒にやっていく事になる。組織は地域組織になっている。課題についての運動・親睦を深めている。できる運動からやっていく。国労と一緒に運動を進めていく。発展を。



高橋所長あいさつ



国労は、すごい歴史と運動くだと思っ。JRでは交運共済に他労組も加入している。もとは国労だった。退職されたら、退職者組合と、つながりがある。退職事業が円滑にやられる。組織されている。素晴らしい歴史の組織され運動を進めることができる。



来賓あいさつの後、退職者ひとりひとりに感謝状が守橋委員長から贈られました。そして、全体の記念撮影がありました。第二部は、加藤副委員長長の乾杯ではじまりました。

乾杯 加藤副委員長



退職者のみなさん あいさつ

国労はあったかい
人情・人間味がある



四月三〇日に退職。五月一日から出向。運転職場へ国労として闘ってきた。闘争団の闘いが一番心配、早期解決を地域の仲間にも訴えてきた。解決するまでがんばる。国労のひとりり、あったことが、地域のコミュニティセンターで働く事ができた。これからも国労と共に。

やっと俺の後ろにはいない。誰もいない席に立った。動労から国労へ加入、その時に追及行動があった。何が正しかったかわかる。卒業しても国労での経験を持ち続けたい。みんなと一緒に共有したい。お世話になった。その人達の出逢いが素晴らしい。国労は暖かい。人情・人間味があるから国労運動が発展。

楽しい思い出 一緒に運動を

直江津出身・現在新潟。三月に退職し現在は無職。やめても組合事務所によられる状態だ。他労組ではできない。事務所に顔を出される。国労に入っていて幸せを感じる。

一月に退職・五七歳。現在フリー。もの見方へ国労にいて、どう判断するか学習できた。当時、国労が主張した事を検証してほしい。できる限り一緒に運動をしていきたい。

国労に加入してから差別されたが楽しく過ごした。

直江津機関区の闘争時、鉄塔に赤旗をつけた。いろんな闘争を経験した。旅行のときに車の中でシチリンを出してメザシを焼いて酒を飲んだ。楽しい思い出。闘いは厳しいけれどもおもしろい、楽しい事もあった。北海道から沖縄まで旅をしたい。

